

# プラトンをどう教えるか

## —ブルーナーの「構造化」理論による授業展開例—

愛知県立岡崎高等学校教諭

兼松 正人

### 1 はじめに

プラトンの授業展開の中心は、「アイデア論」の理解にある。その意味と意義とを十分に考えさせ、理解させることが重要である。歴史的背景やエピソードは必要最小限にすべきである。むしろ、ソクラテスの刑死した年(前399)、28歳の青年プラトンを追思考する程度にとどめたい。青年プラトンの問題意識を共感し、思索を追思考して、「アイデア論」から生徒自身の人間としての在り方生き方を考えさせるような授業を展開したい。また、「哲人政治」や「四元徳」などについても説明できるとよい。

### 2 ソクラテスの生き方

プラトンの著作は『書簡』13通を含めて36篇ほどある。彼の著作のきっかけは、前述のソクラテスの刑死の意味への問いとソクラテスの生き方の探求にあったと思われる。

プラトンの初期著作『ソクラテスの弁明』(30b)で、ソクラテスは次のように語っている。

「わたしが歩きまわっておこなっていることはといえば、ただつぎのことだけなのです。諸君のうちの若い人にも、年寄りの人にも、だれにでも、魂ができるだけすぐれたものになるよう、ずいぶん気をつかうべきであって、それよりもさらに、もしくは同程度にでも、身体や金銭のことを気にしてはならないと説くわけなのです。そしてそれは、いくら金銭をつんでも、そこから、すぐれた魂が生まれてくるわけではなく、金銭その他のものが人間のために善いものとなるのは、公私いづれにおいても、すべては、魂のすぐれていることによるのだから、というわけなのです」

#### (1) アレテー(徳)の追求

プラトンは、ソクラテスの生き方の意味を問うなかで、師ソクラテスの問題意識を継承する。すなわち、師ソクラテスの「人間として善く生きるには？」という「アレテー(徳)の追求」を引き継ぐのである。ただし、問題追求の出発点は、ソクラテスの到達点である「魂への配慮」であった。すなわち、「魂への配慮」とは、具体的にどうすることかという問いかけである。このように授業

展開してくると、現代に生きる高校生の人間としての在り方生き方の問題と接点が出てくる。彼らにとっては、なんとなく「魂への配慮」は重要用語ではあるが、よくわからないのである。同様に、古代ギリシアに生きたプラトンにとっても「魂への配慮」は疑問であったということが教室の生徒たちの共感を呼び、プラトンの授業展開のよき導入となるのである。このプラトン自身の問題を生徒に問うてもよい。

#### (2) 「魂への配慮」=「アイデアの追求」

ソクラテスが「人間として善く生きる(アレテー)」として結論した「魂への配慮」とは、プラトンにとっては「アイデアの追求」であった。ここで問題になるのは、「アイデアとは何か？」ということと「プラトンは、なぜそう考えたのか？」ということである。

まず、「アイデア」とは、われわれの感覚ではとらえることのできない超感覚的なもので、現実(感覚世界)が変化・消滅し続け不完全であるのに対して、不変であり完全であり理想的なものである。実際に、われわれの心は、理想的な学習計画を思い描くことができる。ここで、ギリシア語の「アイデア」が、英語の「アイディア(考え、思いつき)」の語源となったことも述べておきたい。

ここで重要なことは、われわれは見たことも経験したこともない超感覚的なアイデアを、いかにして知ったのかという「アイデアの認識」の問題である。

#### (3) アナムネーシス(想起)=エロース

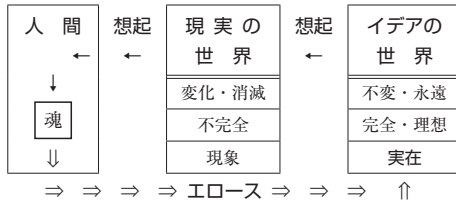
超感覚的なアイデアを、いかにして知ったのであろうか。そのような認識能力がわれわれにあるのだろうか。現実に見ることも触れることもできない超感覚的な理想形であるアイデアを知ることが可能なのであろうか。

プラトンは『パイドン』(75e)で、ソクラテスに次のように語らせている。

「もし生まれるまえに知識を得て、生まれるときにそれを失ってしまい、あとになって感覚を用いて、これらのものについて以前にもっていたあの知識をとりもどすのであれば、われわれが学ぶということは、もともと自分のものであった知識

を再把握することなのではないか。そしてこれを、想起と呼んで正しいのではないか

アイデアの認識とは、忘れていたものを想起こすという「想起(アナムネーシス)」にほかならないというのである。想定外の説明である。しかし、この説明はソクラテスが語るという理由だけで信じてよいものであろうか。プラトンのアイデア論を【図解】した後に説明しよう。



「美」や「善」だけでなく、「三角形」や「人間」というあらゆる概念(言葉)は、いかにして獲得されたのか。われわれは「美しい人」にも「美しい景色」にも「美そのもの」という「美のアイデア」を感じ、認識している。道行く人たちを他の動物と区別できるが、理想的な人間という「人間のアイデア」を見たり触れたりしたことはない。

プラトンは、アイデアの認識(獲得)を次のように説明する。変化・消滅し続ける不完全な現実の世界に生まれ生活するなかで、忘れていたアイデアの世界を折に触れて想い出していくのであると。もう少し説明すると、われわれの「魂(心)」は、もとは「アイデアの世界」に暮らしていたが、「現実の世界」に生まれると同時に「アイデアの世界」をすっかり忘れてしまっている。そして、「現実の世界」で生活するなかで、変化・消滅する個々の経験を通して、「アイデアの世界」を想起こす(「想起」)のである。この「想起」をする経験は、「魂(心)」にとっての喜びであり、ますます認識(学習)する意欲を刺激する。

そして、いよいよ高揚していくアイデアへの思慕のエネルギーを「エロース」の愛というのである。この意味で、「想起(アナムネーシス)」と「エロース」とは表裏である。「エロース」とは、広い意味での「向上心」であり「学習意欲」である。「エロース」は、より高次のアイデアをより強く求め続ける。プラトンは、結局は「善のアイデア」に向かうと説く。

上の【図解】で、人間には魂(心、精神、理性)があることは誰もが認めることであろうが、この魂が個々の人間のアイデアであり、そのアイデアが、無限に広がる「アイデアの世界」を想起こすのである。

したがって、ソクラテスの「魂への配慮」とは、プラトンにとっては魂のアイデアへの思慕(エロース)を原動力とした「アイデアの認識」であるといえよう。

### 3 アイデア論の構造的理解(現代化)

現代を生きる高校生が真剣に考え、学ぶに足る授業展開にするために、J.S.ブルーナーの教授理論である「構造化(現代化)」という方法を用いる。この教育方法は、まず内容精選方法であり、授業展開方法でもある。次に、考えるに足る本質の問題を提示し、授業実践可能な教育方法である。第3に、オリジナル(個性的)な研究内容を導く教育方法でもある。

ブルーナーは、『教育の過程』(岩波書店、1963、p.25)で、次のように述べている。

「ある分野で基本的諸概念を習得するということは、ただ一般的原理を把握するというだけではなく、学習と研究のための態度、推量と予測を育ててゆく態度、自分自身で問題を解決する可能性にむかう態度などを発達させることと関係があるということである」

#### (1) 追思考学習=構造化

プラトンのアイデア論を授業展開するとき、「問題意識」→「出発点」→「解決方法」→「真理発見」→「問題解決」のように構造化していくと、授業内容は精選され、問題意識が共有されれば、興味関心の高まる授業展開も可能となる。また、記憶中心の学習から思考・発見のある授業実践も可能となってくる。さらに、普遍妥当性をもつ「真理発見」や「問題意識」の共感、「問題解決」への思考過程を学ぶことは、現代社会を生きる高校生たちへと転移していく「現代化」の教育方法とも言えよう。

#### (2) プラトンの出発点=魂への配慮

プラトンの問題意識は、師ソクラテスと同じで「人間として善く生きるには？」すなわち、「アレテーの追求」である。

ただし、プラトンの問題解決への「出発点」は、師ソクラテスの到達した「問題解決」であった「魂への配慮」であった。

つまり、「魂への配慮」という人間としての在り方生き方は、よくわからないのである。この点は、教室の高校生たちの共感を呼び起こしやすい。彼らもよくわからなかったが、古代ギリシアに生きたプラトンも同じであったかと安堵するからである。

この共感を得ることは、プラトンのアイデア論理

解にも、プラトンの思索を辿る授業展開においても大切な導入のテクニックである。

(3) 等式(アイデアの追求=魂への配慮)

プラトンのアイデア論、そして想起(アナムネーシス)とエロースの愛については、すでに述べているので繰り返さない。ただし、いかに授業展開していくのかは、末尾の学習指導案を参照してほしい。

ここでは、高校生が真剣に考えるに足る思考方法を提案したい。わたしは、「等式の証明」と呼んでいる。授業内容の本質を思索できるように単純化して提示することである。最も単純な形式「A=B」という等式を生徒たちに投げかけるのである。

プラトンのアイデア論であれば、「なぜ、プラトンは魂への配慮をアイデアの追求と考えたのか?」を、等式「魂への配慮」=「アイデアの追求」と単純化して提示し、「等式の証明」として教室の高

校生たちに問いかけるのである。ここにおいて、高校生たちは真剣に(プラトン自身になりかわって)思索し始める。構造化あるいは現代化の教育方法の醍醐味はここにあるといっても過言ではない。知識偏重打破の教育方法も学習内容精選の目的もこの思索の時間にあると思われる。

4 おわりに

プラトンのアイデア論の授業展開例を学習指導案として末尾に提示しておく。授業実践研究とは、まず実践し、次に改善を工夫していくものだからである。ここに従来自覚されてこなかったが重要な「研究方法」が潜んでいると思われる。

本小論引用文は、  
「世界の名著6 プラトンI」(中央公論社、1966年)の  
「ソクラテスの弁明」田中美知太郎訳  
「パイドン」池田美恵訳 からである。

平成〇〇年度 公民科「倫理」 学習指導案

段階	学 習 内 容	指導上の留意点	評 価 の 観 点														
導入 5分	プラトンの「アイデア論」 (1)問題：人間として善く生きるには？ =アレテー(徳)の追求 ⇒ソクラテスの問題を継承	・ソクラテスの刑死(前399)をプラトン(28歳)の立場から追思考させる。	・「ソクラテスの刑死」の理由と意味を共感できたか。														
展開 40分	(2)出発点：「魂への配慮」とは？ →師ソクラテスの解答の意味を問う =プラトンの出発点	・「魂への配慮」とは、どういう意味で、具体的にどうすることか、というプラトンの心情を共感させる。	・ソクラテスの到達点(解答)から、プラトンの思索が出発したことを理解できたか。														
	(3)方法：想起(アナムネーシス)…魂が、アイデアの世界を想い起こすこと=エロースの愛 (4)真理：アイデア…魂(心、理性)によって認識される理想・不変の実在 (5)解答：魂への配慮とは、アイデアを追求することである。 ⇒「四元徳」を追求する	・本小論のアイデア論の【図解】を板書して、想起(アナムネーシス)を中心に説明する。 ・下の「等式の証明」を思索させる。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding: 5px;">魂への 配 慮</td> <td style="padding: 5px;">=</td> <td style="padding: 5px;">アイデアの 追 求</td> </tr> </table> “なぜプラトンは、そう考えたのか”をじっくりと考えさせ、発言させる。	魂への 配 慮	=	アイデアの 追 求	・アイデア論の全体像と「アナムネーシス」と「エロース」の関係が明確に理解できたか。 ・「等式の証明」の意味をよく理解し、思索できたか。 ・本時の学習内容を総合して考え、生徒の活動は意欲的であったか。											
魂への 配 慮	=	アイデアの 追 求															
終結 5分	・「四元徳」…知恵・勇氣・節制・正義 ・「哲人政治」…生産者・防衛者・統治者がそれぞれの徳(アレテー)を發揮し調和する理想国家論 ⇒哲人王が統治する独裁政治	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td rowspan="3" style="padding: 5px;">魂 の 働 き</td> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">理性</td> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">知恵</td> <td rowspan="3" style="padding: 5px;">調 和</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">意志</td> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">勇氣</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">欲望</td> <td style="padding: 5px;">→</td> <td style="padding: 5px;">節制</td> </tr> </table> ・上図を板書して、魂の働きと「四元徳」の関係を説明する。 ・上図の右端の統治者階級による「哲人政治」を説明する。	魂 の 働 き	→	理性	→	知恵	調 和	→	意志	→	勇氣	→	欲望	→	節制	(統治者階級) 正義 (防衛者階級) (生産者階級) ・魂の三つの働きから、「アイデア論」と「四元徳」、「哲人政治」との関係が把握できたか。
魂 の 働 き	→	理性		→	知恵	調 和											
	→	意志		→	勇氣												
	→	欲望	→	節制													